



# 優秀賞 (総合部門)

タイトル

繋がる長屋(ツナガルナガヤ)

タイプ

持家連続建

講評

減築や、小屋裏の空間化、飛ばしたブリッジなど大胆かつ巧みなリフォームの提案である。内外装の仕上げもシンプルでモダン、かつ自然素材で工夫が凝らされ、リフォームの可能性を広げる作品となっている。

リフォーム前後の写真



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

### リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

・76歳になるおばあさんとその娘さんの家族がそれぞれに住まう築35年以上になる2件長屋の片方のリフォーム。建物は小規模の長屋が軒を連ねる密集した地域に位置する。

・要望は2件を繋げること、自然素材を使用すること、明るく開放的にすること。希望としてはガーデニングができるスペースが欲しいということ。

### 《concept》

・南側を一部減築して庭とすることで向かいの建物との空間を生み採光を確保する。また、庭は道路と繋げ内部とは濡れ縁で繋ぐことで外との交流を促すと共に内部の延長として内に取り込む。平屋ながら一部天井高が高く取れる部分を利用してリフォーム部分と既存部分を立体的に繋ぎ全体として回遊性を持たせる。

・天井高が高いのと既存給湯器が老朽化していたのでガス床暖房を導入した。それに伴って床材は肌触りの優しさを優先して岡山産桧一等フローリング(ガス床暖対応品)を用いている。壁材は床と同じ桧一等羽目板(延焼部分は難燃処理)を使用し内外部の繋がりを強調するため、内外共横目透かし張りとした。塗装も内外共に黒ベンガラに松煙を混ぜた物を水で溶きウエスで刷り込み、その上に松脂に菜種油を混ぜたものでコーティング仕上げている。

・吹抜けにより立体的に繋がったことで通風が良くなり、また、南の大開口により既存の奥の部屋まで明るくなった。大開口は断熱のためペアガラスとしている。

・構造は金物・二重梁・筋交などの補強と、羽目板下地を兼ねて内外共に合板で挟むことにより固めている。

特に配慮した住宅性能：耐震補強・省エネルギー・バリアフリー・住む人の健康

### データ

所在地	大阪府東大阪市	構造/築後年数	在来木造/35年
該当工事面積	44.53 m <sup>2</sup>	該当部分工事費	570万円
居住者構成	5人(大人<15歳以上) 3人 子供 2人 ペット 犬2匹		
設計者	大藪義章建築計画所 一級建築士事務所	担当者	大藪 義章
施工者	(株)アート匠	担当者	福浦 良二

### リフォーム前

### リフォーム後

